

教科名	数学	週時間数	4時間	学年	1年
使用教科書 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「未来へひろがる数学3」（啓林館） ・ワーク「数学の問題ノート」（新学社） ・カラープリント「積み上げ」（明治図書） 				

教科のねらい	<p>数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成する。</p>				
授業の進め方	<p>授業は、教科書の内容を中心に進めます。クロムブック（クラスルーム）には、授業計画や1時間の流れ、問題の解答など、自分たちで学習を進めるために必要なものが載っています。</p> <p>授業中は、課題に合わせて、自分の力で取り組んだり、仲間と協力して取り組んだり、自分で学び方を選択します。ノートには、理解できたことや大事だと思ったことを自分でメモします。</p> <p>また、定期的に振り返りを記述します。学んだことや学び方について振り返り、改善や成長につなげます。</p>				
定期テスト	出題方針	教科書やワーク、カラープリントの内容に準じて、基本的な数学力を問う問題を出題します。また、応用問題の出題により、数学的な見方や考え方の習熟度を測ります。			
	範囲 (予定)	1学期中間	正の数・負の数		
		1学期期末	正の数・負の数 文字と式		
		2学期中間	方程式 変化と対応		
		2学期期末	平面図形 空間図形（前半）		
	学年末	空間図形 データの活用 1年生のまとめ			
評価方法	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・授業の様子 ・長期休業明けの宿題テスト 			
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・授業の様子 ・長期休業明けの宿題テスト 			
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・振り返り（記述） ・ノート ・ワークへの取組 ・小テスト 			
学習方法 (先生からの アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読み、自分で学び取れるようになることが理想です。 ・授業中は、課題に合わせて、自分の力で取り組んだり、仲間と協力して取り組んだり、自分で学び方を選択しましょう。ノートには、理解できたことや大事だと思ったことを自分でメモしましょう。 ・ワークは、授業の進度に合わせて日々自分で進めましょう。テスト期間のときには2周目の解き直しができるようにしましょう。 				

学期	月	単元	学習内容	学習のポイント
1	4	オリエンテーション		
	5	1. 正の数・負の数	・0より小さい数	・0より小さい数があることを知る。
			・正の数・負の数で量を表すこと	・日常的な具体的な事象を通して、正・負の意味を理解する。
	6		・絶対値と数の大小	・正・負の数の大きさを理解する。
			・正の数・負の数の加法、減法	・加法、減法の計算方法を理解し、それらの混合計算ができるようになる。
	7	2. 文字の式	・加法と減法の混じった計算	・乗法、除法の計算方法を理解し、それらの混合計算ができるようになる。
			・正の数・負の数の乗法、除法	
・乗法と除法の混じった計算				
7		・いろいろな計算	・四則計算の可能性を保つために数の範囲を広げる必要があることを知り、数の概念を(正・負の)有理数にまで拡張できるようになる。	
		・数の世界のひろがりや四則計算		
		・数量を文字で表すこと		
2	9	3. 方程式	・方程式とその解	・方程式及びその中の文字や解の意味を理解する。
	10		・方程式の解き方	・等式の性質を理解し、一次方程式が解ける。
			・比と比例式	・比や比の性質についての基礎的・基本的な理解を確実なものにし、比例式の意味や活用について理解することができる。
	11	4. 変化と対応	・方程式の利用	・一次方程式を用いて解くことができる。
			・関数	・ともなって変わる2つの数量に着目し、一方が変われば、それに対応して他方の量が変わるといふようなとらえ方ができるようになる。
			・比例の式	・比例の特徴を式の形でとらえることができる。
			・座標	・比例の関係をグラフに表すことができる。
		・比例のグラフ	・反比例の特徴を式の形でとらえられる。	
		・反比例の式	・反比例の関係をグラフに表すことができる。	
		・反比例のグラフ	・事象から比例、反比例の関係を見いだして、問題を解決できる。	
		・比例、反比例の利用		

	12	5. 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> ・直線と角 ・図形の移動 ・基本の作図 ・円とおうぎ形の性質 ・円とおうぎ形の計量 	<ul style="list-style-type: none"> ・直線や線分、角とその表し方など、直線図形に関する基本的な事項を理解する。 ・平行移動、回転移動、対称移動の意味とその基本の性質を操作を通して知る。 ・定規とコンパスを使って基本的な作図ができるようにする。また、作図を利用できるようにする。 ・おうぎ形の弧の長さや面積は中心角に比例することを理解する。また円の接線、弧、弦の意味を理解する
3	1	6. 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな立体 ・空間内の平面と直線 ・立体のいろいろな見方 ・立体の表面積 ・立体の体積 ・球の計量 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の意味、角錐、円錐、多面体、正多面体について理解する ・空間における直線と平面の位置関係について理解し、平面の決定条件を理解する。 ・運動によって立体を見ることにより、立体の概念理解を深める。 ・立体を平面上に表す1つのアイデアとして、投影図の見方、考え方を理解する。 ・展開図を利用して、柱体、錐体の表面積を求めることができる。また、体積の公式を理解し、体積を求めることができる。 ・球の体積について、実験をイメージしながら、体積の公式を導く過程を、具体的な数で展開し、その上で、公式を与えられ、具体的な球の表面積や体積を求めることができるようになる。
	3	7. データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布 ・代表値と散らばり ・近似値 ・調べたことをまとめ、発表しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて資料を収集し、度数分布表に整理したり、ヒストグラムに表したりすることができる。 ・集団の傾向をとらえるためには、度数分布表やヒストグラムのほかに、代表値や試料の散らばりにも着目する必要があることを知る。 ・誤差や近似値について理解し、それぞれの場面で、それらを適切に扱うことができるようにする。 ・資料について調べたことを、ヒストグラムや代表値を用いて説明したり、自分の考えを発表したりすることができるようにする。